

# 令和6年度 第4回 アーバンデザインセミナー レポート

## 1 セミナー概要

日時：2月8日（土）13時00分～

場所：UDCBK

テーマ：「図書館×まちづくり」

講師：UDCBK 副センター長

立命館大学 理工学部建築都市デザイン学科  
准教授 阿部 俊彦 先生

参加者：11名

＜セミナーの様子＞



- フィールドワークで、図書館や書店のそれぞれの取り組みについて理解が深まった。
- 自分とは違う視点で色々な意見を聞くことができた。
- 社内ではなかなか出ない声が聞けた。
- もう少し色々なバックボーンの方の参加があれば、さらに良かった。

## 2) 活用について

＜Q:セミナーの内容はまちづくりや私生活で活かせるものでしたか＞



### 【コメント】

#### ■活用できる

- フィールドワークがあることでより考えやすくなった。
- 今より少しずつでも良くなっていきそう。
- 居場所を作る必要性が理解できた。
- すぐに始められそうなアイデアがあった。
- 出たアイデアを図書館担当者に伝えてみる。
- 目指す方向性が統一していると感じた。
- 施設との連携強化として議題に挙げられる。
- 改めて空間の大切さを感じた。感覚的な部分を言葉で聞けて良かった。
- 他市でも図書館改修される時期で、図書館の未来を考えるきっかけになると思う。

## 4 まとめ

近年、地域の活性化のために魅力的な図書館を考案する自治体が増えている中で、南草津駅は駅前に南草津図書館と書店が立地しており本を活用したまちづくりを行うにあたって高いポテンシャルを秘めていると言えるが、複合施設内の別のフロアで運営しているため連携が難しく、テナントごとに活用できる空間に物理的な制限や利活用にあたっての課題が多く、そのポテンシャルを十分に活かしていない現状がある。

また、今回のフィールドワークでの発見として南草津図書館、書店ともに限られたスペースの中でより多くの人に本を手にとってもらえるようにしたいというコンセプトから本の量を増やしているが、それが原因で人が過ごす空間が確保できないというジレンマに陥っている様子が伺えた。

阿部先生からは課題解決をそれぞれのテナントで考えるのではなくフェリエ南草津のテナント全体で取り組むことや南草津駅周辺の公共空間を活用して解決を考えることが重要であるとの助言があり、草津図書館本館や立命館大学内の図書館、県立図書館と蔵書情報を連携することで本の量を減らし、くつろぐスペースなどを確保する旨の提案をされた。

今回のセミナーは第1回のセミナーと同様に信託事業を8年後に終了するフェリエ南草津の今後のあり方を考えるにあたって必要な視点を関係者とともに学べる機会となった。今回の学びやアンケートの結果をもとに新たな関係者を巻き込みながらさらなるまちづくりの連携強化を図りたい。

## 2 当日の様子

今回のセミナーでは、都市空間・まちづくりの観点から、全国各地で復興支援やにぎわい創出など様々な課題を抱えるまちづくりに携わっておられる副センター長の阿部先生に、南草津駅前における読書環境について講演いただいた。

前半は子どものためのスペースやくつろぐための空間を積極的に取り入れた図書館や図書館機能だけでなくカフェや美術館、書店、スーパーなどを併設した多様な図書館の先進事例についてお話をいただいた。

後半はフェリエ南草津内の南草津図書館と書店でフィールドワークを行い、それぞれの職員から施設の説明や配置の考え方、コンセプトなどの説明を受け、読書環境評価を行い、最後にフィールドワークでの気づきを共有するディスカッションを行った。

## 3 アンケート結果

### 1) 満足度

＜Q:セミナーの満足度を教えてください＞



### 【コメント】

- 講師の先生のお話がとても参考になった。